

推進校別事業報告書

<取組と成果のポイント>

- ・「自己を見つめ、よりよく生きようとする」ことを道德の時間で具体化するための基本的な授業構成の工夫
- ・読み物資料の読み込みと指導案作成のための手順の工夫

1 推進校（又は推進地域）の概要

学校名	所在地	電話番号	児童生徒数
大口町立大口西小学校	大口町余野六丁目440	0587(95)5066	512人

2 研究課題

- (1) 道德の時間を要として、特別活動を中心に全教育活動を通して行う道德教育
 - ・道德的実践指導の場である学級生活や学校生活における集団活動や体験的な活動を充実させ、それらを道德の時間で取り上げ、その行為や実践を道德的な価値として自覚できるように、また、自己の生き方についての考えを深めることができるように道德の時間を工夫する。
- (2) 子どもにとって日常的な生活の場である学級集団づくりの工夫
 - ・日常生活の全体が子どもの道德性を育む場である。特に、一日のほとんどの時間を過ごす学級は、あいさつなどの基本的な生活習慣や、皆で生活する上でのきまりを身に付けたり、教師と子ども、また、子ども同士の間人間関係を深めたりする大切な場である。このことを踏まえ、道德性を育むことができる学級集団づくりを工夫する。

3 研究主題とその設定理由

・研究主題

「自己をみつめ、よりよく生きようとする子どもを育てる道德教育」

- 一 道德的価値に照らして、自己を振り返り、よりよく生きようとする自分を感じることができ道德授業過程の工夫を通して 一

・設定理由

子ども達が自らの人生をよりよく生きていくためには、自分のよさに気づき、自己肯定感を高めていくなかで、自己実現を図ることができるようになることが必要である。子ども達は自らの成長を実感できたとき、充実感を感じ、さらによりよく生きようとする。

しかし、家庭や地域の変化に伴い、少子化、核家族化が進み、規範意識や他者への思いやりの心、生活習慣の確立など、本来家庭や地域で学んできた道德性が育まれなくなってきている。また、子どものいじめや自殺、暴力行為等が大きな社会問題になっている。このような問題行動は、自己や他者のよさを感じ、認め、大切にしたい気持ちが十分育っていないことが原因の一つだと指摘されている。また、自分に自信がある子どもが国際的に見て少ないことや、学習や将来の生活に対して無気力であったり不安を感じたりしている子どもが増加していることも指摘されている。このような状況や問題に対して、学校のもっている集団生活の場としての機能を十分生かした、道德教育の一層の充実が求められている。

道德教育は、本来、社会や子ども達自身の未来を拓き、よりよいものにしていくためのものである。過去を振り返ることも、今を見つめることも、よりよい未来を切り拓くことにつながらなければならない。しかし、成り行き不透明な現代は、希望を抱き将来を展望すること、自分の人生を前向きに切り拓いていくことは容易ではない。しかし、このような時代だからこそ、子ども達が自らの未来を拓き、意欲的に生きるための力を育むことは道德教育に課せられた重要な課題の一つである。

子ども達がよりよく生きる力を身に付け、社会と調和しながら自己実現を図るためには、道德

教育、特にその要である道徳の時間を充実させ、自己を見つめながら自己の生き方についての考えを深めるようにすることが必要である。

以上の考えのもとに、主題を「自己をみつめ、よりよく生きようとする子どもを育てる道徳教育」とした。そして、「よりよい生き方の指針となり、人間らしいよさを表す道徳的価値を、自己と向き合いながら真剣に考えることができる子ども」を育てたい子ども像とした。

4 研究の概要及び特色

(1) 主題を達成するために

- ・道徳的価値を自己と向き合いながら真剣に考えることができる資料との出会いや子ども同士の多様な考えや気持ちの交流、指導上の工夫など、子ども達にとって魅力ある道徳の時間の工夫を行う。
- ・道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深めることができる道徳の時間の指導過程を工夫する。
- ・道徳の時間の質を向上させるために講師を招聘し、教師の授業力の向上を図る。
- ・子どもにとって日常的な生活の場である学級集団づくりを工夫する。

(2) 道徳性検査について

児童一人一人や学級・学校全体の道徳性の実態や傾向を把握し、実態に即した指導計画を立て適切に指導をしていくために実施。

・検査名

道徳性検査「教研式 HUMAN III」（株式会社 図書文化）

・実施学年

第3～6学年児童全員

(3) 研究組織

*モラル委員会

- ・校長、教頭、学校評議員

*研究推進委員会

- ・校長、教頭、教務、校務
- ・道徳教育推進教師
- ・現職教育主任
- ・学年主任

*現職教育部会

- ・道徳部会
- ・授業部会
- ・学級部会

(4) 研究計画

月	研 究 内 容	関連行事
4	現職教育（学級づくり） 道徳の授業開き	校外学習
5	現職研修（読み物資料の資料分析）講師：松井伸市先生 道徳に関する意識調査の実施 道徳性検査（教研式HUMAN）の実施 学級集団の状態及び学校生活における意欲や満足度に関する調査（Q-U）の実施	読書週間 （異学年交流）
6	学校訪問（公開授業で道徳で授業研究） 第1回道徳授業学習会（2・4年生）講師：松井伸市先生	「いのち」に関する 講演会・修学旅行
7	第2回道徳授業学習会（5・6年生）講師：松井伸市先生 第3回道徳授業学習会（1・3年生）講師：松井伸市先生 1学期の研究の振り返り	
8	道徳に関する研究会参加（講師 横山利弘先生）	
9	第4回道徳授業学習会 講師：行本美千代先生	学校保健委員会
10	学級集団の状態及び学校生活における意欲や満足度に関する調査（Q-U）の実施	校外学習 自然教室

1 1	1日 中部地区小学校道徳教育研究大会（全学級道徳公開）	人権集会
1 2	2学期の研究の振り返り	
1	道徳に関する意識調査の実施	西っ子発表会
2	研究のまとめ	縄跳び集会 （異学年交流）
3	次年度の方向性の検討	

(5) 研究課題にかかわる取組

ア 道徳の時間の基本的な考えについて

* 「自己を見つめ、よりよく生きようとする」を道徳の時間で具体化するために

主題にある「自己を見つめ、よりよく生きようとする」とは、「思いやり、友情、目標に向かってくじけずがんばる等、よりよい生き方の指針となり人間らしいよさの基本であり、判断や行動の基準となる道徳的価値を、真剣に考え、心にしっかり受けとめる」ことを意味している。別の表現をすれば、「道徳的価値の自覚を深める」ことである。

「道徳的価値の自覚」については、学習指導要領解説道徳編(平成20年8月)の30ページに、①「道徳的価値の理解」、②「自分とのかかわりで道徳的価値がとらえられる」、③「道徳的価値を自分なりに発展させていく」という三つの段階が紹介されている。つまり、道徳的な価値が自分の外側にあるのではなく、自分とのかかわりで捉えたり、自己の生き方へ反映させたりすることが「自覚（真剣に考え、心にしっかり受けとめる）」のあるべき様相だと考えた。

つまり、「自己を見つめ、よりよく生きようとする（道徳的価値の自覚）」とは、単に道徳的価値を理解するだけではなく、何らかの形で自分のものにし、自分の生き方に反映させる段階にまで到達しなければならない。道徳的価値を基準としながら、まず「自己理解」が必要であり、次に「自分の中にある課題や問題点が分かり」、それらをもとにして、「自分がどうありたいか」にまで考えを発展させることが必要である。

イ 自己を見つめ、よりよく生きようとする子どもを育てる道徳の時間について

* 三つの工夫

「自己を見つめ、よりよく生きようとする子ども」を育てるためには、道徳教育を補充・深化・統合する道徳の時間において、上記の①から③の段階を踏む授業の構成が必要になると考え、以下の三つの段階を授業に取り入れた。

段階		主な内容	指導案上の発問区分
つかむ	導入	1 授業で扱う資料や主題への興味・関心を深め、本時のねらいとする道徳的価値への方向付けをする段階	-
ふかめる	展開	2 様々な意見に触れ、多様な考え方・感じ方を自分なりに吟味し、判断を加えながらねらいとする道徳的価値の自覚に迫る段階	基本発問 1・2
		3 自己の中に新たに芽生えた道徳的価値を基盤にして、自分自身や自分の生活を振り返り、次に活かそうとする段階	中心発問
あたためる	終末	4 ねらいとする道徳的価値を整理したり、実践への意欲化を図ったりする段階	自分を見つめるための発問

ウ 道徳の時間と読み物資料について

道徳の時間は、主に読み物資料を用いて授業が行われる。この読み物資料を教師がきちんと読み込み、子ども達が真剣に考えることができる発問づくりを行うことが必要である。

そこで私たちは、横山利弘先生のお話を聞いたり、行本美千子先生（関西学院大学非常勤講師）の作成された以下の「道徳授業準備のための手順」をもとにしたりしながら、資料を

読み込み、中心発問を考え、授業づくりを行った。

エ 指導案作成のための手順

1	資料名（出典）		
2	骨格をつかむ	①生き方を自覚したのは誰か （主人公）	
		②生き方を自覚することになった出来事（助言）は何か	
		③生き方を自覚するのはどこか	
3	構図		
4	中心発問		
5	中心発問に対する 予想される児童生徒 の反応（答）		
6	主題・内容項目	（例）家族愛 4－（6）	
7	ねらい		
	(A)	(道徳的に変化する) 主人公を通して	
	(B)	しようとする	
	(C)	を育てる	
8	ねらいとする 道徳的価値		
9		中心発問以外の場面の発問	予想される児童生徒の反応（答）
	場 面		
	場 面		

5 研究の評価

(1) 研究の成果

* 中心発問について

- ・資料を教師が読み込み、発問を吟味することで、子ども達の発言が増え、多様な感じ方・考え方を引き出すことができたようになった。
- ・補助発問をすることで、子ども達が友達の考えと自分の考えを比べたり、まとめたりすることが少しずつできるようになり、道徳的価値の理解を深めることにつながっている。

* 道徳の時間を通して

- ・子ども達が友達の考えを今まで以上に興味をもって聞くようになり、授業への意欲が高まった。

(2) 道徳性検査の成果

- ・検査結果

*内容項目ごとの全国比較で「全国の傾向より望ましくない傾向にある項目

- ①第3学年・・1-1「自立節度」 2-1「礼儀」 2-2「親切」
2-4「感謝」 3-2「自然動植物愛護」
4-1「公德心・規則尊重」
- ②第4学年・・1-5「個性慎重」
- ③第5学年・・なし
- ④第6学年・・3-3「敬けん」

・考察

*特に以下のことがこの検査により鮮明になり、重点指導項目として取り上げた。

検査結果と教師の児童実態把握とのずれが一番大きかったのは、内容項目視点4-1「公德心・規則尊重」である。検査結果によると、4-1「公德心・規則尊重」は、第3学年が、全国平均より望ましくない方向にあると判断され、第4～6学年は、結果（意識面）では、全体的には悪い結果は出ていない。しかし、学校での児童の実態からは、どの学年も内容項目「4-1」に問題を抱えている。意識（認知）面では理解していることが、行動レベルで実践できない児童が多い実態が浮かび上がった。

従って、道徳の時間で内容項目4-1を重点項目として授業で扱うとともに、道徳教育及び生徒指導から、公德心及び規則尊重を扱う取組（行為・行動面）が必要であることが分かり、行為面からの指導も重点的に行うこととした。

(3) 今後の課題と取組

- ・子ども達が「自己を見つめ、よりよく生きようとする（道徳的な価値の自覚）」ため、また、指導の充実を図るため、一人ひとりの子どもを多様な方法によって評価することで、子ども達の道徳的な成長を見取る必要がある。

道徳の時間の評価だけでなく、日常生活の中で様々な現れ方をする子ども達の道徳的成長を見取る評価について取り組んでいきたい。